

将来省の可能性

一橋大学政策フォーラム

上須道徳

uwasu@ceids.Osaka-u.ac.jp

2015年12月13日

問い：社会のパフォーマンスはどう決まるのか？

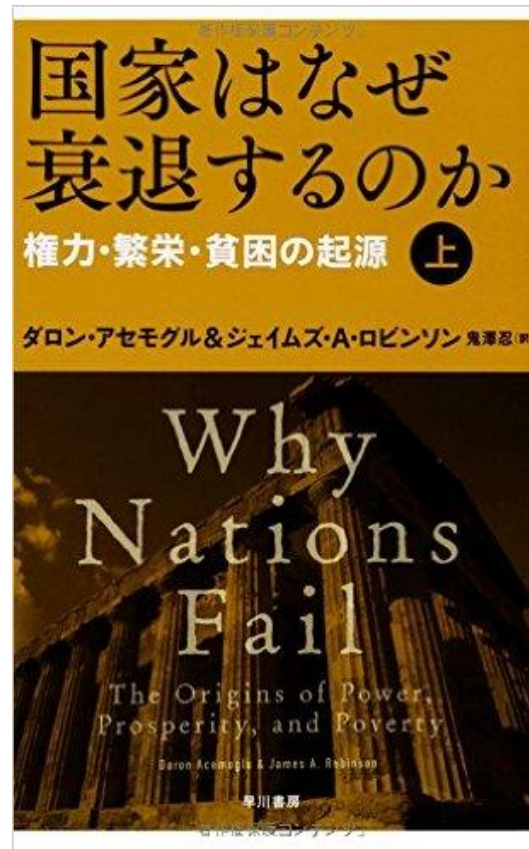
- 20数年前，ラオス・サバナケット（ラオス第2の都市）とタイ・ムクダハン（タイ東北部の地方都市）の国境で体験したこと
- 言葉・文化，気候などが同じなのに発展度合が全く違う。
- →持続可能な発展やアクターの集団（社会）の意思決定についての研究の始まり

研究歴

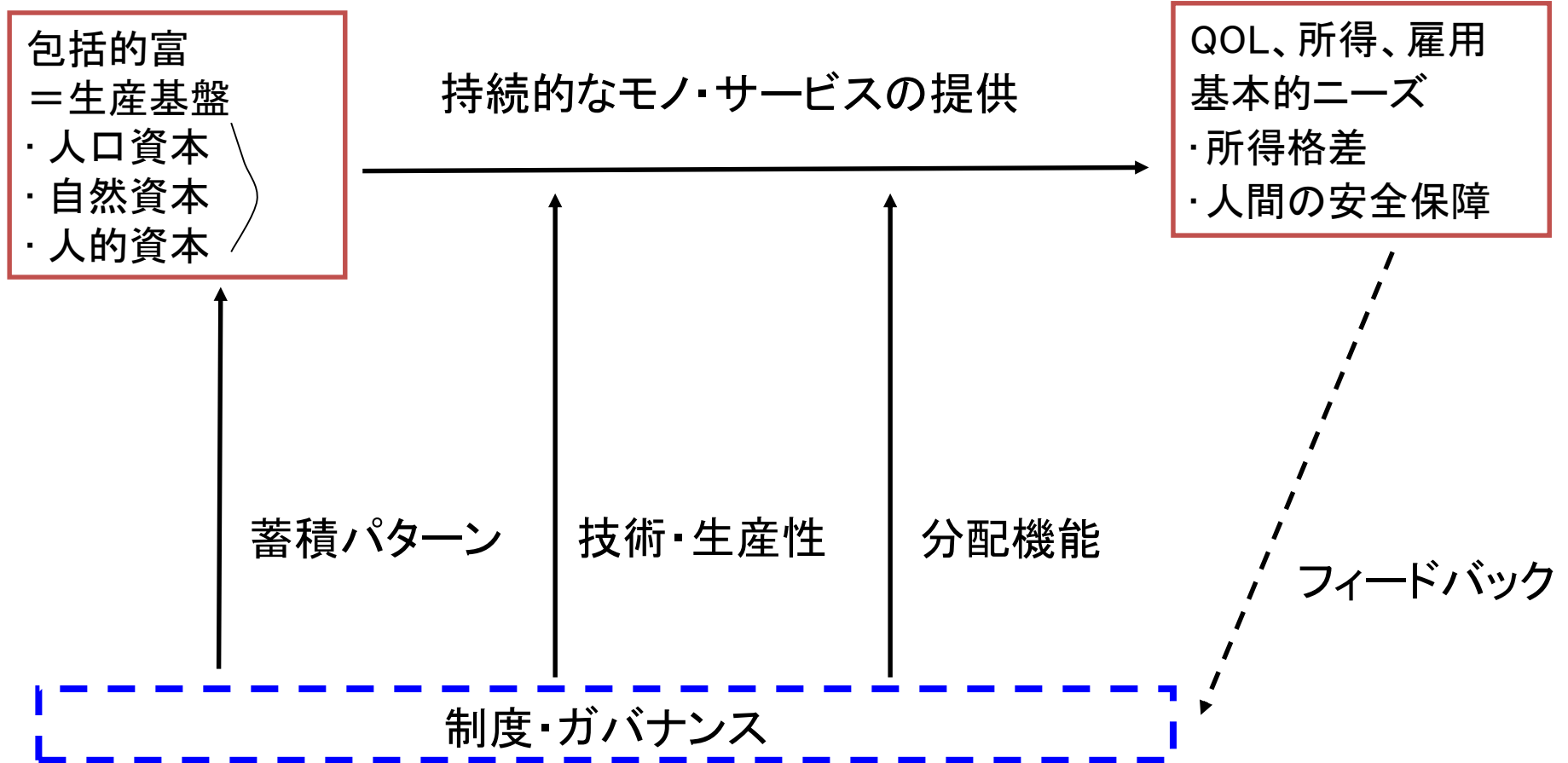
- 経済学研究: 進化ゲーム (selection theory) を応用した資源管理問題の研究. 経済実験アプローチを用いた集団での意思決定の均衡の収束過程(学習過程)についての研究.
- サステナビリティ研究: サステナビリティ指標, 環境政策評価, エネルギー需要分析, シナリオ研究, サステナビリティ教育
- Future design研究: Future design枠組みの構築, 討議実験
- フィールド調査研究: 中国雲南省, 奈良県十津川村

なぜ国家は衰退するのか？

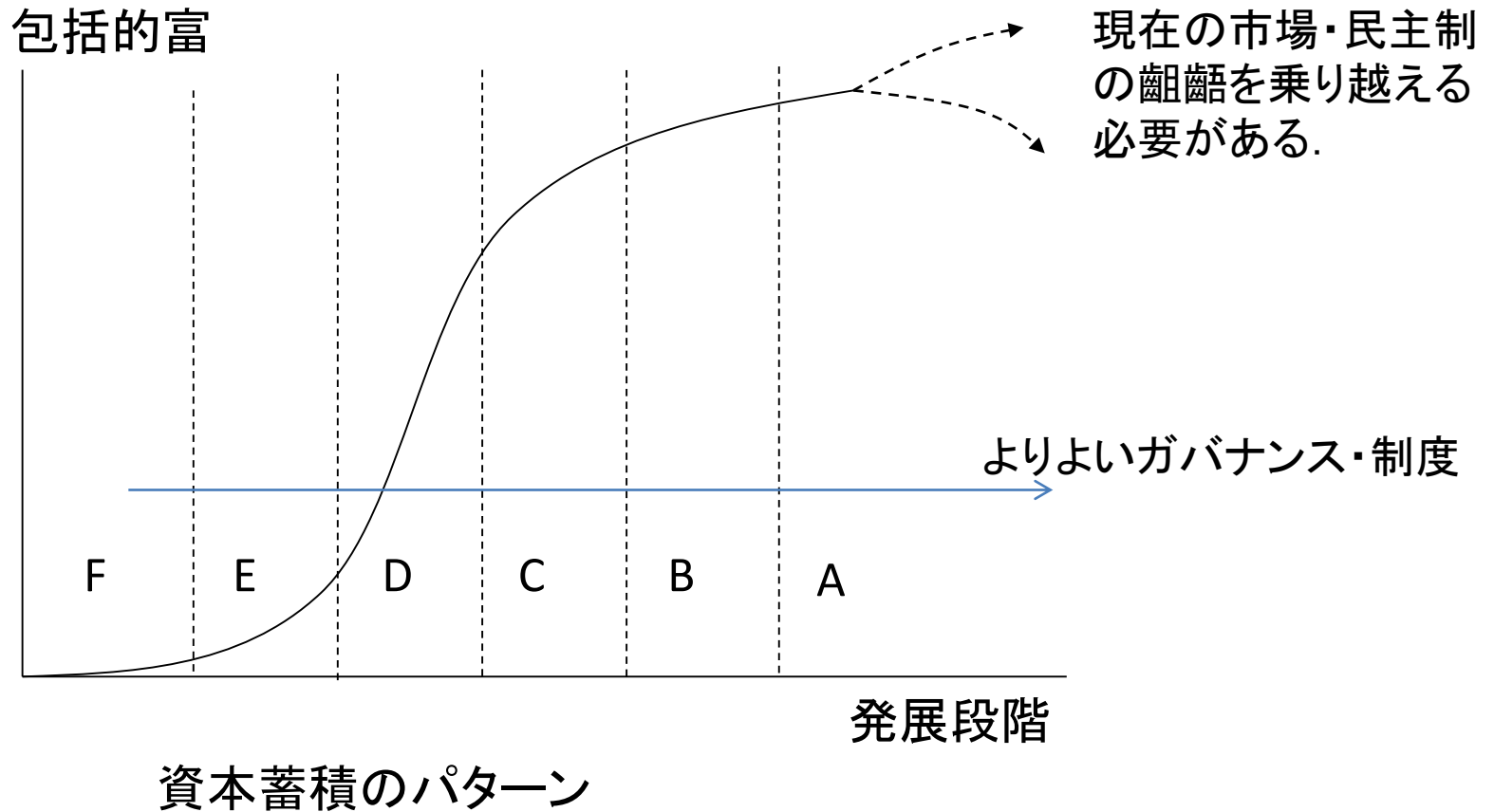
- Acemogule and Robinson (2012) “Why nations fail?” → Inclusive institutions=包括的な制度がカギ



持続可能な発展に対する経済学的視点

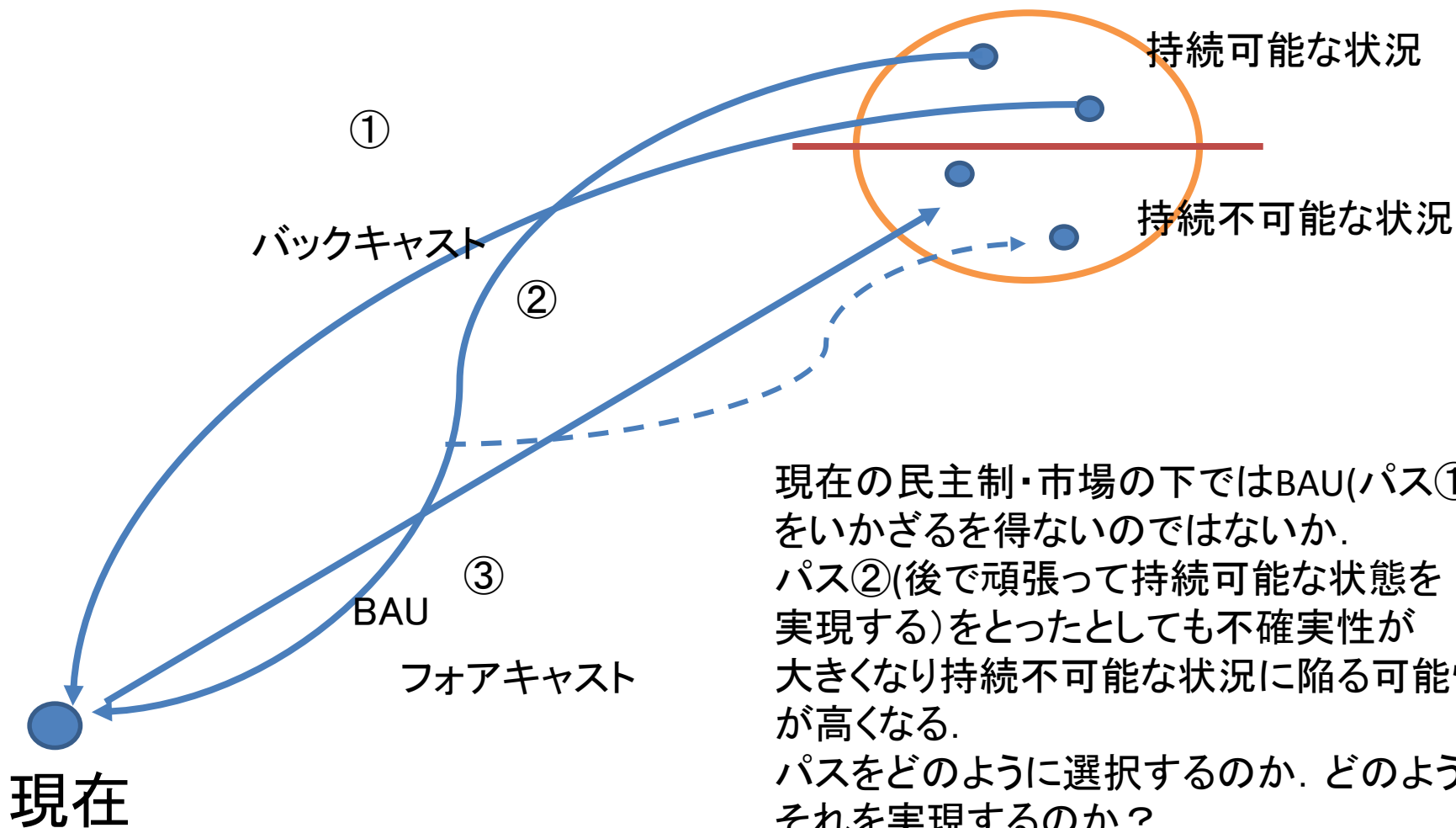


資本蓄積パターンと制度



サステナビリティ学的視点

将来における可能な社会像群



現在の民主制・市場の下ではBAU(パス①)をいかに得ないのではないか。

パス②(後で頑張って持続可能な状態を実現する)をとったとしても不確実性が大きくなり持続不可能な状況に陥る可能性が高くなる。

パスをどのように選択するのか。どのようにそれを実現するのか？

フューチャー・デザイン

- 将来世代の声を様々な意思決定の場面に組み込むしくみをデザインする必要がある。
- 広い意味では世代間討議の方法論を確立する必要がある(仮想将来世代と現代世代を交渉させる)
- 多様な価値観が併存する社会においては合意形成や討議のみでは解決できない問題ももちろん多く存在する
- 政府の役割は依然重要である。

政府

- 政府：政治家と官庁
- 政治家：様々な民意の優先順位を決定することを担う。暗黙かつ究極のインセンティブは当選すること→将来の課題を優先的に解決する行動に出ることは困難。
- 官庁：政治家の決定のための判断材料となる情報の提供と決定された事項の効率的な執行及び運営を役割とする（行政組織法第1条）

日本の省庁

- 総務省、法務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、防衛相、国家公安委員(以上, 行政組織法), 内閣府(内閣府設置法)
- 情報収集、調査分析、政策立案、政策の実施・運営、啓蒙活動及び省庁間調整等.
- 特性: 強い連続性と縦割り行政→高度で専門性の高い情報蓄積がある. しかし, 分野横断の視点を必要とする問題(地球環境問題, エネルギー問題, 貧困問題など)や課題(行政サービスの向上など)への対応が苦手

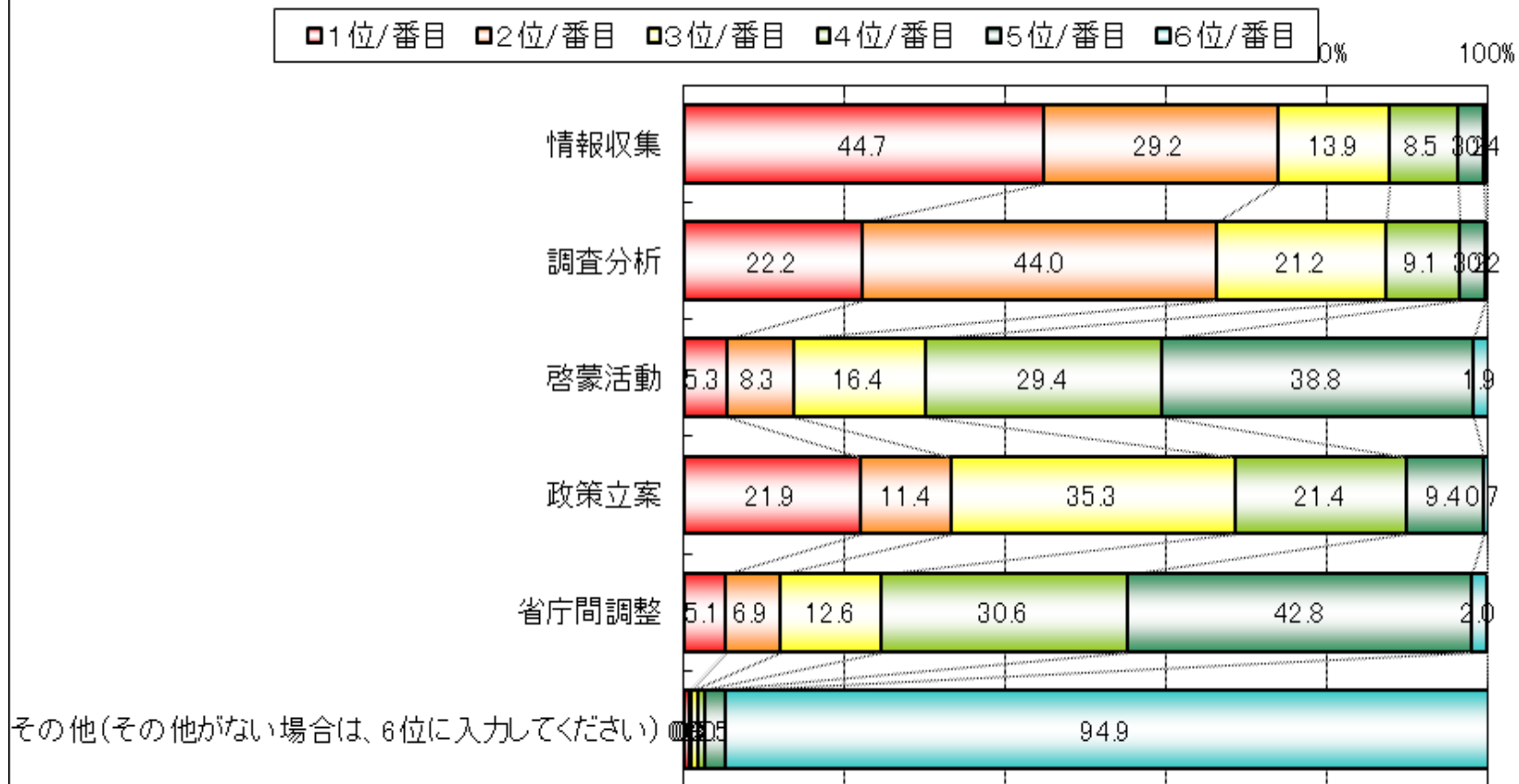
将来省の役割

- 将来世代の存在を現世代の社会生活に取り込む役割を担う省庁, すなわち将来省.
- 各分野におけるサステナビリティにかかわる情報収集・分析.
- 他省庁の政策・施策へのご意見番. 権限をどのようにするのかについてはもちろん議論が必要.
- リスク管理や社会のビジョン形成も対象.
- 地方自治体や企業においても将来課のようなものがあったらよいだろう.

人々が将来省に求めていること

[Q20]まず役割についてお訊きします。

以下の役割について必要と思われる順に順位を付して下さい。

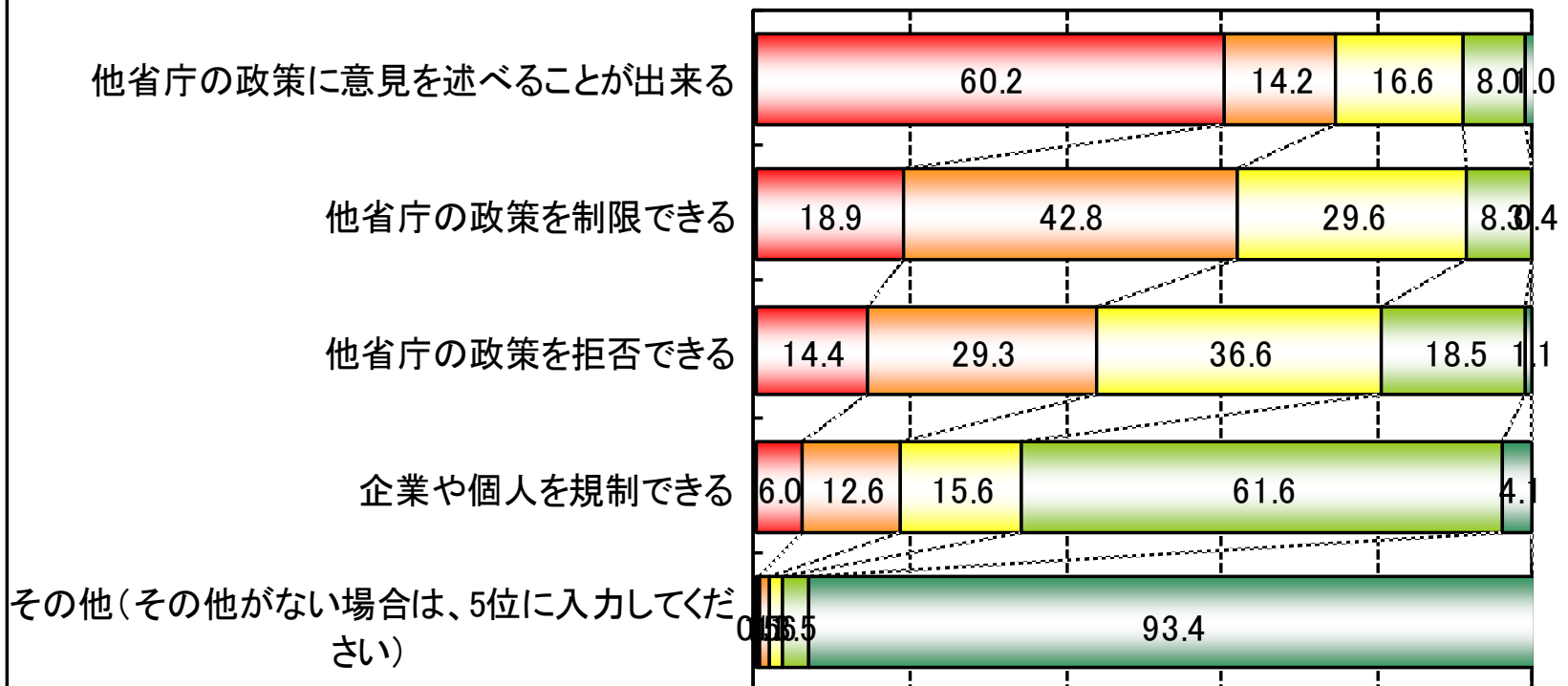


人々が将来省に求めていること

[Q22]次に権限についてお訊きします。

以下の権限について必要と思われる順に順位を付して下さい。

□1位/番目 □2位/番目 □3位/番目 □4位/番目 □5位/番目 80% 100%



将来省の在り方

- 「将来世代の意見」が外圧等によって揺らぐことのないようや強固な組織上の連続性が不可欠.
- 各他省庁向けに効果的な働きかけができるような組織構造も必要. 縦割り構造(〇〇省担当)ではなく, マトリックス構造(次スライド).
- 人事院(内閣直轄で)や会計監査院や裁判所(憲法によって独立性が担保されている)に定められている)のように他の行政組織とは異なる立場が必要か.

将来省の役割：将来世代を代弁し持続可能な社会の構築に貢献

【理念】		財務省	経産省	国交省	総務省
将来世代を代弁	① 「環境保護」					
	② 「長期安定的経済」					
	③ 「文化保護」					
	④ 「長期安定的資源・エネルギー」					
	⑤ 「高度かつ安全な技術・制度」					
	⑥ 「その他」					

中央官庁のマトリックス構造概念図

担い手は？

- The Green Book(イギリス):政策やプログラムの提案、実施が公共サービスの効果的な適用につながっているのかを専門的に評価する指針. 財政学や経済学などの学問基盤があり公共政策大学院などすでにプロフェッショナルスクールが存在する.
- 会計監査院:会計学と呼ばれる学問基盤が備わっている.
- 将来省は第三者として持続可能な社会の指針を作成し、行政や政策を評価する機能を持つ.
- 持続可能性の観点からプログラムや政策を評価する方法が確立しているとはいいがたい。プログラムや政策評価における学術面での進展や人材育成が大きな課題.

人材育成

- 世界はますます不確実(良い意味でも悪い意味でも)でリスクに満ち溢れたものに.
- 「定義されていない問題をどのように解くのか？」→そもそも専門家がいない. どのような専門性が必要かも不明.
- 専門教育だけでは対応できない.
- 高等教育:リベラルアーツの充実や将来学部を設置.
- 初等教育:熟議の導入.
- リカレント教育の充実.

将来省の意義

- 設置することそのものに意義がある：例：環境省や防衛省
- 国内においては将来世代の存在を現世代に強く印象づけることになる。
- 日本が将来世代の存在を重視しようとしているとの強いメッセージを感じ取ることになる。
- 様々な場面において将来世代のことを考える規範性を醸成する大きなきっかけになるかもしれない。

ご清聴ありがとうございました.